

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 一般財団法人 名古屋YWCA

1. 事業名称 外国人ファミリーのための日本語講座と地域連携プログラム

2. 事業の目的

外国人家族、日本人配偶者やその子どもとして日本で生活する外国人が日本語の環境の中で健康を保ちながら安全に楽しく生活できるように日本語学習を通じてサポートする。地域連携においては、「標準的なカリキュラム案」の活用方法、「やさしい日本語」について検討し、理解を深めるワークショップを行う。また日本文化教室を通じて日本人との交流の機会を設ける。

3. 事業内容の概要

取組1では「生活者としての外国人」に対する日本語教育の「標準的なカリキュラム案」をもとに基本的な生活場面での「生活日本語」、「子育てと教育」、「生活・マナー」、「健康と安全」をテーマに学ぶ。取組2では日本人の生活に親しむため日本文化(着物、刺繍、折り紙、筆ペン、生け花)などを日本語で学ぶことも取り入れ、楽しく学ぶ工夫をする。取組3「外国人ファミリーのためのにほんごサマースクール」では、外国人の子どもの日本語・日本文化教室とその保護者の生活の漢字教室を開催する。取組4では、「標準的なカリキュラム案」の活用方法、活動案の検討、また、防災をテーマに地域の外国人に必要な情報を伝えるための「やさしい日本語」の使用についての検討をし、地域のボランティアに役立てる。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 5月16日 13:30～15:30	2時間	名古屋YWCA 402教室	松本一子、山田慶江子、伊藤典子、北村朱美、磯村美保子、久田かおり、西田文乃、上村桂恵子、和田貴子	事業内容と各取組の進め方についての検討	事業概要、予算の説明 各取組の広報(募集方法、チラシ)、講座内容、打ち合わせ方法の検討。
2	平成25年 9月4日 14:00～16:00	2時間	名古屋YWCA 402教室	松本一子、山田慶江子、伊藤典子、北村朱美、磯村美保子、久田かおり、西田文乃、上村桂恵子、和田貴子	事業の中間報告と後半の検討	開催した取組の報告(取組2第1回「着物教室」、取組3「外国人ファミリーのためのにほんごサマースクール」、取組4第1回「標準的なカリキュラム案」の活用方法)後半の事業の中間状況報告、内容の再検討と広報について検討。
3	平成26年 2月4日 14:00～16:00	2時間	名古屋YWCA 104教室	松本一子、山田慶江子、伊藤典子、北村朱美、磯村美保子、久田かおり、西田文乃、上村桂恵子、和田貴子	事業の報告、評価と今後の展開について意見交換	開催した取組の報告、アンケート結果をふまえて、各講師から事業評価の共有と内省。

5. 取組についての報告

○取組1:外国人ファミリーのための日本語講座「生活と子育ての日本語講座」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

①地域の人と相互理解を図り、病気や災害に適切に対応できるようにする。②入園、入学の手続きができるようにする。③幼稚園や学校の行事内容が理解できるようにする。ボランティア団体と外国人生活者とのつながりを作り、外国人が地域と関わりながら生活できる基盤作りをする。特に地域で子育てに関わる人とのネットワークを構築する。

(2) 取組内容

名古屋市とその近郊にはフィリピン人や中国人の日本人配偶者が多く存在するが、子どもができる日本語を学ぶ機会が得にくくなる。また、生活が個人化して地域社会のつながりが弱くなっているため、特に外国人が地域の情報を得るのは難しい。このような現状を踏まえ、外国人が地域社会の一員として健康で安全な生活を送れるように、日本語と生活情報が学べる環境を提供する。なお、教室では希望者に保育も行う。

(3) 対象者:ひらがな、かたかなが書ける外国人父母

(4) 参加者の総数: 18人

(出身・国籍別内訳 中国8人、ベトナム3人、フィリピン2名、オランダ1名、アメリカ1人、モンゴル1人、ウクライナ1人、タイ1人)

(5) 開催時間数(回数) 30時間 (全15回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名	保育スタッフ
1	平成25年 9月13日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	7人	中国(2人)、ベトナム(2人)、フィリピン(1人)、アメリカ(1人)、モンゴル(1人)	生活の日本語 自己紹介	1. 自己紹介 2. 申し込み用紙(銀行振込)の書き方の練習をする。 3. あいさつの仕方(「いい天気ですね。」と言われた時どう応えるか等)を考える。	伊藤典子	和田貴子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 伊藤裕子、中島純子
2	平成25年 9月20日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	9人	中国(2人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、アメリカ(1人)、ウクライナ(1人)、タイ(1人)	生活の日本語 (スーパー)	1. あいさつの仕方(第1回の復習) 2. スーパーでの買い物について(買い物時の表現の練習、ワークシートで表示の読み方等を学んだあと、レリアアを使い必要な情報を読み取る練習をする。)	伊藤典子	和田貴子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 伊藤裕子、中島純子
3	平成25年 9月27日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	8人	中国(1人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、アメリカ(1人)、ウクライナ(1人)、タイ(1人)	生活の日本語 消費活動 (衣料品)	1. 宿題発表(受講生が実際にスーパーで購入したものを持ってきて商品の説明をする。) 2. 衣料品など買い物体験について。布の素材、値段の見方、洗濯表示などについて学ぶ。 3. レリアア(電気店のパンフレット)を使い必要な情報を読み取る。	伊藤典子	和田貴子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 伊藤和美
4	平成25年 10月4日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	7人	中国(1人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、アメリカ(1人)、タイ(1人)	生活の日本語 消費活動 (飲食店)	1. レストランでの体験を話す。 2. メニューの言葉、漢字の意味を学ぶ。 (ファストフード店(2店)、カフェ、フレンチレストランの4種類を用意。) 3. ロールプレイ(ペーパーワーク) メニュー配布シート選択→わからない言葉にマークをつける。質問、依頼、注文などの「せりふ」を書き出し、練習→サンプル表現提示→練習 4. 次週の発表の説明、テーマ決め	伊藤典子	和田貴子、 上村桂恵子	伊藤和美、中島純子、 松野佐代子
5	平成25年 10月11日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	10人	中国(5人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、ウクライナ(1人)	生活の日本語 成果発表	発表(「生活の日本語」のまとめ) (1回から4回までに学んだことからテーマ(スーパー、食品、衣料品、レストラン)を選び、自分の体験を話す。) 新参加者の4人は自己紹介をする。	伊藤典子	和田貴子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 伊藤裕子、伊藤和美、 中島純子
6	平成25年 10月18日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	15人	中国(7人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、オランダ(1人)、アメリカ(1人)、モンゴル(1人)、ウクライナ(1人)	子育てと教育 学校制度	1. 自己(子どもについて中心)紹介 2. 情報提供: 学校制度、学期、学校の種類(国立公立私立)等について学ぶ。 3. ペア練習: 2で学んだ言葉を使って、自分の国の学校制度、学校の種類などについて話す。(一発表。日本との違いを理解する。)	和田貴子	伊藤典子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 中島純子、松野佐代子、 (中村瑛保)
7	平成25年 10月25日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	12人	中国(7人)、ベトナム(2人)、オランダ(1人)、モンゴル(1人)、タイ(1人)	子育てと教育 小学校編	※公立の小学校中心 使用教材: 使用教材DVD『ようこそ！さくら小学校へ』 1. 自分の通学区域の小学校を知る。 (タブレットを使用し検索) 2. 日本の小学校の紹介 (使用教材: 『ようこそ！さくら小学校へ』 3. インフォメーションギャップ(教材に出てくる言葉を使い、適足の持ち物でインフォメーションギャップを行う。) 4. 情報提供: 小学校の基礎知識(学校数、学校名、学習費等)を学ぶ。	和田貴子	伊藤典子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 伊藤和美、中島純子
8	平成25年 11月1日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	15人	中国(8人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、オランダ(1人)、モンゴル(1人)、タイ(1人)	子育てと教育 お弁当とおやつ	1. 名古屋名物「奥まんじゅう」を作る。 2. お弁当をつくる。 ＜中身＞おにぎり(形: 三角、俵型、丸、キティ、くま)、からあげ、ウィンナー、卵焼き、トマト、きゅうり、ブロッコリー、人参 → 実演と体験: おにぎり、卵焼き、ウィンナー 3. お弁当の中身を詰める。 4. 試食	國枝京子	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤裕子、伊藤和美、 中島純子、 (中村瑛保)
9	平成25年 11月8日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	12人	中国(6人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、オランダ(1人)、ウクライナ(1人)	子育てと教育 幼稚園・保育園	1. 幼稚園と保育園の基礎知識を知る。 1) 違い 2) 認可と認可外 3) 幼稚園、保育園の各事業(預かり保育、延長保育、一時保育) 4) 認定こども園 2. 幼稚園、保育園の遊び方について ※幼稚園の様子(動画) ※グループごと先輩ママから色々な情報を聞く活動 3. 幼稚園1年の費用 4. インタビュー(ペア)	和田貴子	伊藤典子、 上村桂恵子	* 濱島洋子、 伊藤和美、中島純子
10	平成25年 11月15日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	9人	中国(4人)、ベトナム(1人)、オランダ(1人)、モンゴル(1人)、ウクライナ(1人)、タイ(1人)	子育てと教育 親子の将来計画	1. 受講生の今後の計画を自身で認識(家庭内や子どもとの言語について) 2. 日本の学校と自国との違いを知る。 3. 二つの言語で育つ子どもにも大切なことを知る。 (DVD鑑賞: ダブルリミテッド)	松本一子	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤裕子、伊藤和美、 中島純子、 松野佐代子
11	平成25年 11月22日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	11人	中国(3人)、ベトナム(3人)、フィリピン(2人)、オランダ(1人)、アメリカ(1人)、タイ(1人)	生活・マナー 税金	1. 地方自治体・都道府県と市区町村とは何かを知る。 2. 行政サービスを知る。 3. 税金の必要性和種類を知る。 4. 情報提供: 税金を正しく、賢く、納めるための情報	北村朱美	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤裕子、伊藤和美、 中島純子
12	平成25年 11月29日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	6人	中国(1人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、オランダ(1人)	生活・マナー 保険	1. 社会保険について知る。 2. 「わたしの保険は？」受講生自身の現在の保険について知る。 3. ゴミ分けゲーム(ゴミの出し方)(3グループに分け、都市別のゴミの分別の違いを知るゲームを行う。)	北村朱美	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤裕子、伊藤和美、 中島純子

13	平成25年 12月6日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	9人	中国(2人)、ベトナム(3人)、フィリピン(1人)、オランダ(1人)、アメリカ(1人)、ウクライナ(1人)	生活・マナー ことば	1. 「禁」のサイン「注意」のサインその他のサインについて学ぶ。一色々なサインを見ながら語彙と意味を学習(ex)立ち入り禁止、取扱注意等) 2. 日本のマナーや習慣で驚いたことを話し合う。 3. 日本語で生活情報を得る。(ペアワーク) → ネット「検索ワード」を入力し、知りたい情報を得る。ネットやチラシから冬休みの計画を立てる。(2～3家族で名古屋市内に遊びに行く。)	久田かおり	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤和美、中島純子
14	平成25年 12月10日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	5人	中国(1人)、ベトナム(2人)、フィリピン(1人)、オランダ(1人)	健康と安全 AEDと人工呼吸	1. 緊急時の電話のかけ方 1) 救急車、消防車、パトカーの電話番号確認いつかけるか等 2) 病気のケガの日本語表現を知る／住所の言い方 3) ロールプレイ：緊急時に消防署に電話をかける。 2. AEDの使い方 1) AEDの使い方を学び、体験する。 2) 心臓マッサージ、人工呼吸の仕方の説明 ※心臓マッサージ、人工呼吸の体験	山田慶江子	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤和美、中島純子
15	平成25年 12月20日 10:00～12:00	2時間	名古屋YWCA 201・202教室	7人	ベトナム(3人)、フィリピン(2人)、オランダ(1人)、タイ(1人)	健康と安全 災害に備える	1. 地震の時、どうするかを知る。(①家の中 ②道路 ③建物の中 ④避難所) 2. 震度表の目安を知る。 3. 地震の時に困らないために情報提供する。 4. 災害のために準備する。 「あなたの非常用バッグ」(必要なものはなにかグループで探し出すゲーム)	山田慶江子	和田貴子、 上村桂恵子、 (伊藤典子)	* 濱島洋子、 伊藤和美、中島純子

(): 交通費のみ * : 保育リーダー

(7) 参加者の募集方法

チラシ送付：市内幼稚園、保育園、国際交流協会、図書館、教会、東海日本語ネットワーク、日本語教室、日本語学校など

送付時期：7月上旬

送付部数：約500部

FAX送付：新聞社

ほか、ホームページとブログを作成して告知

HP: <http://www17.ocn.ne.jp/~nywcagl/2013kosodate.html>

ブログ: <http://nywcabunka2013.blog.fc2.com>

(8) 特徴的な活動風景

◆11月1日(金) 「お弁当とおやつ」受講生15人 講師1人 補助者2人 天候：晴天

9:00 スタッフ集合、準備(お弁当とおやつ)の具材、お弁当箱などの準備品を用意)

10:00 講座スタート (お弁当とおやつを同時進行で作っていく。)

名古屋名物鬼まんじゅう作り。

鬼まんじゅうを蒸している間に、お弁当の具材を作り
同時進行で準備していく。

10:30 おにぎりは教室で、卵焼きとウィンナー作りは調理室で行う為、

グループを2つに分け、各行程を交替に行う。

G1: おにぎり作り → 卵焼き、ウィンナー作り

G2: 卵焼き、ウィンナー作り → おにぎり作り

※初めて卵焼きを作るという受講生が多かったが、

どの受講生も飲み込みがよく上手に作っていた。



11:00 休憩(10分) (お弁当の具材を並べる。)

11:10 キャラ弁づくり。お弁当に具材をつめる。

各自で作ったおにぎり好きな具材をお弁当箱につめていく。

※同じ具材でもつめ方はそれぞれであり、受講生は

子どもが好きなもの、好きなキャラクターを考えながら、

オリジナルキャラ弁を作っていた。

11:40 試食(鬼まんじゅう)、日本のお弁当文化(お弁当箱等)の紹介。

試食用の料理を取り分けて食べながら、同時に親睦もはかる。

事前に準備しておいた、様々なお料理本やお弁当箱の紹介、説明を行う。



12:00 講座終了 (各自作ったお弁当を持ち帰る。)

◆11月15日(金) 「親子の将来計画」 受講者9人 講師1人 補助者2人 天候:台風

9:00 スタッフ集合

10:00 講座スタート

※天候が悪いにもかかわらず、「親子の将来計画」について学ぼうと多数参加した。

授業冒頭では、日本の教育の仕方などの具体例をあげ、

受講生の出身国と比較をしながら学んでいく。

※日本だけではなく、受講生の国を例にあげてその教育方法の違いを取り上げたことから受講生の興味をひき、難しい内容であっても楽しく学ぶことができたようだった。



11:00 休憩

11:10 子どもの言語使用(ダブルリミテッド)について

DVD鑑賞(ダブルリミテッドの問題を抱える児童の様子を見る)、

2言語以上の言葉を獲得する際のポイントと注意点について学ぶ。

※ダブルリミテッドという言葉自体、初めて知る受講生がほとんどで、

子どもに関わる今後の大切な話に受講生は熱心に耳を傾けていた。

※受講生だけではなく家族の協力が必要であるという呼びかけに賛同し、

今後の子育ての仕方を真剣に考える受講生の姿が印象的であった。



11:50 手遊び

子どもと一緒に日本の歌を手遊びしながら歌い覚える。

※回を重ねる度に子どもが歌と振りを覚えていく姿が印象的であり、

毎回の手遊びを楽しみにする子どももいた。



12:00 講座終了

(9) 取組の目標の達成状況・成果

検証方法:担当講師、補助者の意見、参加者の感想、教室の様子、ポートフォリオ、アンケート(テーマごと)

Q1:5段階評価:とてもいい/いい/ふつう/よくなかった/全然よくなかった

Q2:4段階評価:とても役に立つ/役に立つ/役に立たない/全然役に立たない

◆全体

講座途中から受講希望者が増え、定員数を上回る応募があり、生活や子育てに特化した講座のニーズの高さを実感した。また地域に住む外国人父母の現状や必要としている情報等も同時に把握することができた。

・子どもの教育や子育てへの関心が高いことが出席率からもわかり、受講生のニーズに合わせた情報提供を行うためのヒヤリングができた。

・受講生は当初の予定とは違い、日本語のレベル差があったが、情報提供の際などには、受講生同士が助け合いながら情報を共有する等、外国人父母の交流が図れた。

・外国人が地域と関わり合いを持ちながら生活できる基礎情報の提供ができた。

・生活場面の日本語に特化した講座を初めて受けたという受講生がほとんどであったが、内容が生活に密着している為、有用度の高い語彙や表現を覚えられると好評であった。

・ブログの開設(毎回授業の様子等を更新)による受講生からのコメントや中間アンケートをもとに、受講生の反応や意見を知ること、授業内容の修正を随時行うことができた。

・名古屋市の新生第2保育園から講座の見学希望があり、名古屋市の保育園の実情を知ると同時に今後の事業展開、自治体や幼稚園・保育園との連携の仕方等を協議することができた。

◆保育

・各授業(第8, 14, 15回を除く)の11時50分から12時までの10分間を母子で参加できる「手遊び」の時間としたが、子どもと一緒に参加しながら、日本の歌を楽しく学べる点が非常に好評であった。

・保育リーダーに、幼稚園教諭と保育士の資格の両方を持ち、且つ日本語教師の資格も有するスタッフを配置したことで、受講生からの信頼もあつく、子育ての悩み相談を受ける等、「生活者としての外国人」の支援を身近に実現することができた。

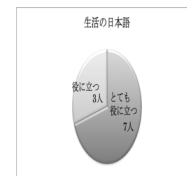
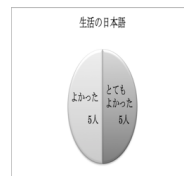
・日本語教育の知識を有する者を保育スタッフにしたことで、「手遊び」の時間等では日本の童謡を受講生が理解しやすく覚えられ工夫ができた。

・教室と保育スペースが隣接していないながら独立した空間であったことから、子どもの様子を感じながら授業に集中することができ、受講生からは安心して授業に臨むことができたという意見が多かった。

◆生活の日本語

・レベル差を生かした情報交換の部分は成功した。

・受講生にとって身近なテーマを取り上げたことで、日本語習得も進み、最後に行った成果発表では、学んだことがしっかりと定着していた。

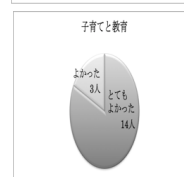


◆子育てと教育

・受講生の知りたい情報を提供できた。

・お弁当やおやつ作りは、実際の子どものためのお弁当作りに役立つものとなった。

・ダブルリミテッドに対する意識を持ってもらうことができた。



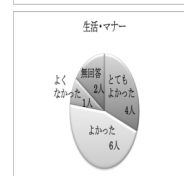
◆生活・マナー

・難しい内容を図式することで理解を図ることができた。

・日本語のレベルが低い受講生には通訳をつけることで情報提供をすることができた。

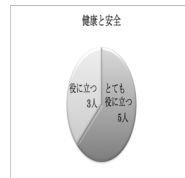
・生活の中で大切な「ゴミの仕分けゲーム」では、楽しみながら学ぶことができると好評であった。

・ネット情報とチラシ情報を織り交ぜた授業の進め方がうまくいった。



◆健康と安全

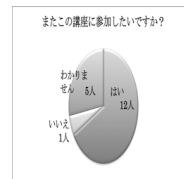
- ・AED講習では、専門家にボランティアで協力してもらったことで、正確な知識や対処法を知ることができ、講習の際も臨場感のある効果的な練習をすることができた。
- ・地震対策では、模型を使っの突っ張り棒、ジェルシート等の情報提供が効果的であった。



(10) 改善点について

◆全体

- ・日本語のレベル差や子どもの年齢差があった為、授業の内容検討やその進め方が困難であった。
- ・日本語を習得することと情報提供とが錯綜し、受講生を混乱させることがあった。
- ・日本語の習得を優先すると、情報を十分に与える事ができず、誤解を招く危険があった。
- ・受講生が希望する日本人父母との交流は実現できなかった。
- ・全体を通して、子どもにまつわる生活場面を取り上げてほしいという意見が多く、それが出席率にも影響した。
- ・外国人が地域と関わり合いを持ちながら生活できる基礎情報の提供はできたが、回数に限りがあった為、実践までは実現できなかった。
- ・出席率が天候や子どもの行事に左右されることが多かった。



◆生活の日本語

- ・2時間でできる内容には限界があった。焦点を絞る必要があった。
- ・全体的に会話が少なかった。情報で得た、または学習した語彙を使用して成果の確認ができる内容にする必要があった。
- ・日本語のレベル差に対応するのが難しかった。

◆子育てと教育

- ・情報提供が中心であった為、会話量が少なかった。
- ・日本語のレベルを考慮した結果、情報提供に限界があった。
- ・子どもの教育等を取り上げる際には、プライバシーに配慮する必要性を感じた。
- ・「親子の将来計画」はテーマが重い為、踏み込み方の判断が重要になると感じた。
- ・本人以外の家族にも協力してもらえようような内容であることが必要であった。

◆生活・マナー

- ・関心のある人と無い人の差が大きかった。
- ・個人情報に触れる内容がある為、個別の対応が必要であると感じた。
- ・日本語のレベルを考慮すると、日本語レベルの高い受講生には簡単なものになってしまうということがあった。
- ・情報提供と日本語の習得は分ける必要があると感じた。

◆健康と安全

- ・AEDの使い方よりも子育てに特化した、子どもの緊急時を取り上げてほしいという意見が多数あった。
- ・地震についての予防のチェックシートを作るとよかった。

○取組2: 日本文化教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ①日本文化への興味と理解を深める。
- ②日本人参加者には地域での外国人との交流の楽しさを知ってもらい、積極的にボランティアに参加する意識を育てる。

(2) 取組内容

外国人生活者と日本人が日本文化の講座を一緒に受ける事で、日本文化の知識を深めるとともに、日本語を使ったコミュニケーションの機会を作る。①「着物教室」では日本の着物について学んだあと、実際に浴衣を着て、着付けからたたみ方までを学ぶ。②「刺繍教室」では、受講生が描いた絵やデザインをその場で刺繍する「ライブ刺繍」を行い、オリジナルエコバッグを作る。③「おりがみ教室」では実生活で活用できるボックス作りを中心にいくつかの作品を作成する。④「筆ペン」では、習字や文字の歴史を学んだ後、家族や友人に送る来年のためのオリジナル年賀状を作成する。⑤「生け花」では基礎知識を学んだ後、実際に「お正月のお花」をテーマに作品をつくる。

(3) 対象者: 日本文化に興味のある外国人、日本人

(4) 参加者の総数: 30人

(出身・国籍別内訳 中国5人、韓国4人、ベトナム1人、モンゴル1人、フィリピン1人、ロシア2人、ミャンマー1人、ギリシャ1人、イタリア1人、日本13人)

(5) 開催時間数(回数) 15時間 (全5回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 7月27日 13:00~16:00	3時間	名古屋YWCA 201-202教室	10人	韓国(2人)、モンゴル(1人)、中国(1人)、フィリピン(1人)、イタリア(1人)、日本(4人)	着物教室 浴衣の着付け	1. 着物や浴衣についての基礎知識を学ぶ。 2. 受講者が好きな浴衣帯、下駄を選ぶ。 3. 浴衣を着る。(浴衣の着付けを2回練習) 4. 浴衣を着た際の所作を学ぶ。 5. 浴衣のたたみ方も学ぶ。	下方タ子	西田文乃、 和田貴子

2	平成25年 9月14日 13:00～16:00	3時間	名古屋YWCA 201・202教室	5人	韓国(1人),中 国(1人),日本 (3人)	刺繍教室 オリジナルエコバ ッグ作り	1. 刺繍についての基礎知識を学ぶ。 2. 4種類のステッチを練習する。 3. ライブ刺繍(エコバッグに用意していた絵(デザイン) を写し、刺繍する。オリジナルエコバッグを作成する。)	井上アコ	和田貴子
3	平成25年 10月26日 13:00～16:00	3時間	名古屋YWCA 105教室	6人	ロシア(2人), ミャンマー(1 人),日本(3 人)	おりがみ教室 おりがみでボックス を作る	成人向けのおりがみ教室 1. おりがみの種類の紹介。 2. 好きな紙(色・デザイン)を選び「角香箱」を作成。 3. オリジナルボックス(四角箱)を作成する。	久田かおり	上村桂恵子, 和田貴子
4	平成25年 11月16日 13:00～16:00	3時間	名古屋YWCA 201・202教室	10人	ロシア(2人), 中国(1人),ベ トナム(1人), ギリシャ(1 人),日本(4 人)	習字教室 オリジナル年賀状 作り	1. 習字や文字についての基礎知識を学ぶ。 2. 毛筆体験(好きな言葉を選び書く)。 3. 筆ペンを使って、オリジナル年賀状を作成する。	加藤玲子	上村桂恵子, 和田貴子
5	平成25年 12月21日 13:00～16:00	3時間	名古屋YWCA ホール	8人	ロシア(2人), 中国(1人),韓 国(1人),日本 (4人)	生け花教室 お正月のお花の生 け方	1. 生け花の基礎知識を学ぶ。 2. 好きな花器を選ぶ。 3. 花に見立てた紙を使用し、花を生ける位置・バランス などを練習する。 4. 各々が考えたテーマの「お正月のお花」を生ける。	西田文乃	上村桂恵子, 和田貴子

(7) 参加者の募集方法

チラシ送付: 国際交流協会, 生涯学習センター, 教育委員会, 図書館, 教会, 東海日本語ネットワーク, 日本語
教室, 日本語学校など

送付時期: 6月上旬～中旬

送付部数: 約500部

FAX送付: 新聞社

ほか, ホームページとブログを作成して告知

HP: <http://www17.ocn.ne.jp/~nywcacjl/2013kosodate.html>

ブログ: <http://nywcabunka2013.blog.fc2.com>



(8) 特徴的な活動風景

- ◆7月27日(土) 「着物教室」受講者10人 講師1人 補助者2人
- 11:00 スタッフ集合後, 打合せと着替え(スタッフも浴衣でお出迎え)
- 12:40 受講者来校
- 13:00 講座スタート
- 着物(浴衣)の歴史について
- 浴衣はいつどんな時に着るものなのか等について学ぶ。
- 13:30 着物, 帯, 下駄選び



有志にご協力いただいて集まった浴衣の中から,
好きな色, 柄の浴衣, 帯, 下駄を選ぶ。
※参加者は思い思いに好きな浴衣を手に取り,
地元特産品の「鳴海絞り」にも興味を示していた。

13:40 着付け練習開始



※どの参加者も飲み込みが良く着付けが上手で,
時間が余ってしまい, 着付けの練習を二回しした。

- 14:30 写真撮影
 14:40 着付け練習2回目(浴衣,帯,下駄の選び直しから)
 15:10 写真撮影
 15:30 所作等を学ぶ。



所作は歩き方や小物の入れ方と出し方等について学んだ。

※写真撮影では準備していた番傘を使用して雰囲気を楽しむ参加者がたくさんいた。

15:40 たたみ方



たたむ順番, たたむ際の注意(どの部分を揃えるのか)を覚える。

※参加者はたたみ方もすぐに覚えてしまう人が多く、最後には手助けなしにたためるようになった。

15:50 振り返り(文化の違いなどを話す。)

※参加者の国の伝統的な衣装についての紹介をしてもらい、着物との違いなどについて話した。

16:00 終了

◆11月16日(土) 「習字教室」 受講者10人 講師1人 補助者2人

12:00 スタッフ集合後, 簡単な打合せと準備

12:40 受講者来校

13:00 習字, 文字の歴史について



習字に関する基礎知識や文字の種類などを学ぶ。



色々な筆,紙で書いた作品等を紹介。
流行の「デザイン習字」についても紹介。

13:40 毛筆体験 (好きな文字を選び書く)



講師が用意したサンプルの語(例:友,父母等)を毛筆で書き作品を作る。

※参加者は躊躇無く,勢いよく文字を書いていた。

14:00 年賀状作り開始



用意していたはがき, 筆ペン(黒色, 朱色, 金色)と千代紙を使用し馬の干支のオリジナル年賀状をつくる。

※参加者はデザインを考えながら, 年賀状作りをしていった。

15:30 作品のテーマ発表



※ 作品の中(写真左)には, 授業冒頭に学んだ色々な種類の文字を取り上げ作品にする人もいた。

※ 外国人と日本人との交流という意味で, 参加者の出身国の新年のあいさつを年賀状(写真右)に書いている人もいた。



16:00 作品を持ち帰り終了



※参加者の知人や友人に年賀状を送る為, 作った年賀状は各自持ち帰った。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

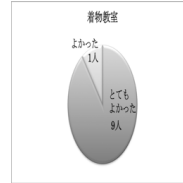
検証方法: 担当講師、補助者の意見、参加者の感想、教室の様子、アンケート(教室ごと)
5段階評価: とてもいい/いい/ふつう/よくなかった/全然よくなかった

◆全体

- ・他の取組からの参加者もいて、取組同士の連携が図れた。
- ・日本人と外国人との文化交流の場を提供できた。
- ・日本人参加者の中には、今後の(日本語教師等)の活動に役立てる為という理由で参加する人も多く、当初の目的(主に文化体験・交流)以外の意味での役割も果たした。

◆着物教室(浴衣の着付け)

- ・7月という開催時期が季節にあっており、この教室をきっかけに浴衣を着て地域のイベントに参加する計画を立てる人もいた。
- ・夏期に短期滞在している外国人参加者もあり、外国人と日本人との交流、日本文化の知識を深める、日本語を使用したコミュニケーションの機会の提供が実現できた。



◆刺繍教室

- ・専門家の講師を迎えた為、より専門的な教室の開催が実現できた。
- ・時間内でできる内容であり、スムーズに講座を進めることができた。
- ・刺繍を通じて、外国人と日本人とのコミュニケーションが図れた。
- ・参加者の中には外国人のためではなく、生活者のための教室として参加する人もおり、国をこえて生活者としての交流の場が実現できた。



◆おりがみ教室

- ・成人を対象とした「おりがみ教室」という点が好評であった。
- ・「おりがみ」は準備も手軽で、「おりがみ教室」への参加も気軽にできるという点が好評であった。
- ・生活をテーマに、実際の生活で使える物を作るという実用的な内容が好評であった。



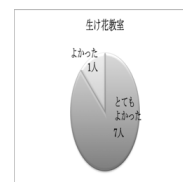
◆習字教室

- ・授業の構成が良く、日本文化を体験できるいい機会になったという意見が多数見られた。
- ・11月という開催時期にあった「年賀状を作る」という内容であった為、参加者は作った作品を実際に誰かに送ることを想定して作成でき、実用的な部分が好評であった。
- ・講師が専門的知識を有し、且つ日本語教師の資格も持っている為授業がより深いものとなり好評であった。



◆生け花教室

- ・12月という開催時期にあった「お正月のお花」を生けることがテーマであった為、実用的であった。
- ・講師が専門的知識を有し、且つ日本語教師の資格も持っている為授業がより深いものとなり好評であった。
- ・基礎知識から実践という構成で授業が組み立てられており、わかりやすかったという意見が多数見られた。



(10) 改善点について

◆全体

- ・熱心な参加者が多く、単発の教室に物足りなさを感じる人がいた。
- ・各教室の開催時期に間隔があり、全教室に参加希望でもスケジュールの都合で申し込みできない人が多数いた。

◆着物教室(浴衣のきつけ)

- ・参加者が予想以上に着付けが上手で時間配分がうまくいかなかった。
- ・日本人参加者がいたものの、着付けに一生懸命になり交流をうまく図ることができなかった。

◆刺繍教室

- ・刺繍を難しく感じる人が多く、参加者が少なかった。
- ・練習時間が少なく時間が足りなかったという意見があった。

◆おりがみ教室

- ・成人向けが好評であった一方で、「子どもと参加できるおりがみ教室」の希望者も多く見られた。

◆習字教室

- ・道具を準備するのが大変であった。
- ・筆ペンを物足りなく感じる参加者がいた。毛筆をもっと体験したかったという意見があった。

◆生け花教室

- ・道具(花器等)を準備するのが大変であった。
- ・材料費が高い為、受講料の点で参加者負担が大きく、申し込みに至らないケースがあった。

○取組3: 名古屋YWCA外国人ファミリーにほんごサマースクール

(1) 体制整備に向けた取組の目標:

- ①外国にルーツを持つ子どもたちに将来長く日本で暮らすための礎となる日本文化への興味と理解を深めさせる。
- ②保護者にも子どもの日本文化体験に立ち会ってもらう。
- ③保護者に生活の漢字を教え日々の生活がスムーズに行えるようにする。
- ④ボランティア指導者の養成、将来のサポーターとなる生徒の育成をする。

(2) 取組内容:

「生活者としての外国人」の予備軍である子どもたちの支援は多文化共生社会の責務であると考え、当該地区に住む外国にルーツを持つ子どもたちを対象として、生活に根付いた日本文化とともに日本語を教える。また、毎週一回保護者のための生活漢字教室、子どもと一緒に日本文化を体験する日も設ける。

(3) 対象者:日本語を母語としない子ども(10歳～18歳)とその保護者

(4) 参加者の総数: 37人

(出身・国籍別内訳 フィリピン13人、中国13人、台湾2人、ウクライナ2人、タンザニア2人、ネパール1人、インド1人、インドネシア1人、イタリア1人、日本1人)

(5) 開催時間数(回数) 30時間 (全10回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 8月2日(金) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	15人	フィリピン(6人)、中国(5人)、インド(1人)、台湾(2人)、ウクライナ(1人)	“読む・書く” 読書アンケート、多読のやり方、多読	読書アンケートを取り、今までの読書に関する調査をする。その後、『多読ライブラリーよむよむ文庫』のレベル0から、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)	石川年子、脇坂知佳
2	平成25年 8月2日(金) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	18人	フィリピン(6人)、中国(7人)、インド(1人)、台湾(2人)、ウクライナ(1人)、日本(1人)	“話す・聞く” 自己紹介	日本語レベルで3クラスに分け、それぞれ初対面の挨拶を練習する。初級クラスでは簡単な自己紹介を板書し、自分の言葉に置き換えて言う練習をする。中上級以上では、あいづお作文で自己紹介を行う。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)	石川年子、脇坂知佳
3	平成25年 8月2日(金) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(6人)、中国(8人)、インド(1人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、日本(1人)	“する(日本文化体験)”折り紙	3グループに分かれて四季のカレンダーを折り紙クラフトを添えて作成する。季節の食べ物や行事を紹介しながら、グループごとに作品を完成させる。サンプルの中から自分で折りたい飛行機を選び、折り図を見ながら各自が紙飛行機を折る。出来上がった紙飛行機で飛行距離を競う飛行機飛ばし大会を行う。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)	石川年子、脇坂知佳
4	平成25年 8月5日(月) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	18人	フィリピン(10人)、タンザニア(2人)、中国(4人)、インド(1人)、日本(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』のレベル0から、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。入門レベルではCDで話を聞きながら指で文字を追う。読んだ後、簡単な記録を書く。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	山下恵美子、遠藤友紀
5	平成25年 8月5日(月) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	21人	フィリピン(11人)、タンザニア(2人)、中国(6人)、インド(1人)、日本(1人)	“話す・聞く” インタビュー	インタビューがどういうものか教え、日本語レベルに合わせて実際にインタビューに挑戦する。初級クラスではインタビューシートを使って、上級レベルではインタビューシートを自作してインタビューを行う。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	山下恵美子、遠藤友紀
6	平成25年 8月5日(月) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	22人	フィリピン(11人)、タンザニア(2人)、中国(6人)、インド(1人)、日本(1人)、ネパール(1人)	“する(日本文化体験)” 書写	書き方鉛筆を使い、姿勢、運筆指導から、平仮名・片仮名・簡単な漢字、自分の名前と住所などの硬筆書写指導を行う。水習字を使い、書道にも挑戦する。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	山下恵美子、遠藤友紀
7	平成25年 8月7日(水) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	17人	フィリピン(7人)、ネパール(1人)、中国(5人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約50冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。読んだ後の感想を上手く表現できない手には気持ちを表す形容詞などを指導しながら、簡単な記録を書かせる。	上村桂恵子(講師)、石川年子(講師)、伊藤里奈(通訳)	山下恵美子、滝藤英里
8	平成25年 8月7日(水) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	24人	フィリピン(10人)、ネパール(1人)、中国(8人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(2人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” インタビュー “生活の漢字” 買い物	友達に、大人に、有名人になど対象をかえたインタビューの実践練習する。上級レベルではなりきりスターインタビューにも挑戦する。 保護者の生活の漢字教室では、買い物用の漢字を中心に指導し、生活の中で困ったことなどを話してもらう。	上村桂恵子(講師)、石川年子(講師)、伊藤里奈(通訳)、滝藤英里(講師)	山下恵美子
9	平成25年 8月7日(水) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	25人	フィリピン(10人)、ネパール(1人)、タンザニア(1人)、中国(8人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(2人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 書写	筆ペンを使い、行書に挑戦。運筆練習の後、好きな漢字を書いてしおりを作成する。 2か所に分かれ順番に、水習字で暗書と行書を体験する。 親子参加者は母子でコミュニケーションを取りながらしおり作成、水習字体験を行う。	上村桂恵子(講師)、石川年子(講師)、伊藤里奈(通訳)、滝藤英里(講師)	山下恵美子

10	平成25年 8月9日(金) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	21人	フィリピン(11人)、ネパール(1人)、中国(5人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、イタリア(1人)、日本(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約50冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。今まで読んできたものの中で人に読ませたいものを選び、再度その本を読む。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤礼子(通訳)	脇坂知佳、森嶋計詞
11	平成25年 8月9日(金) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	21人	フィリピン(11人)、ネパール(1人)、中国(5人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、イタリア(1人)、日本1人	“話す・聞く” スピーチ	多読授業で読んできた本の中から人に薦めたい本を選び、その本のスピーチ原稿を書き、スピーチの練習をする。初級クラスはワークシートを利用して作文を書き、中級クラスはモデル文を参考に自分の様式で自由に作文を書く。発音に注意し、人に聞いてもらうための音読練習も行う。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤礼子(通訳)	脇坂知佳、森嶋計詞
12	平成25年 8月9日(金) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	21人	フィリピン(11人)、ネパール(1人)、中国(5人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、イタリア(1人)、日本(1人)	“する(日本文化体験)” そろばん	そろばん入門指導。『エリンが挑戦! にほんごできます。』(17課)の「やってみよう」コーナーを見てから、基本の指使いを覚え、足し算、引き算までを学ぶ。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤礼子(通訳)	脇坂知佳、森嶋計詞
13	平成25年 8月19日(月) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	16人	フィリピン(6人)、ネパール(1人)、タンザニア(2人)、中国(4人)、インド(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約50冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。ブックレーキングの準備が終わっていない子は準備を、終わっている子は自由に本を読む。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)	滝藤英里、森嶋計詞
14	平成25年 8月19日(月) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	18人	フィリピン(7人)、ネパール(1人)、タンザニア(2人)、中国(5人)、インド(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” スピーチ「ブックレーキング」	多読で読んだ本の中から、自分のおすすめの本として一冊を皆の前で紹介するスピーチを全員が行う。生徒が終わった後でスタッフも自分のおすすめの本を一人ひとり紹介する。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)	滝藤英里、森嶋計詞
15	平成25年 8月19日(月) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	16人	フィリピン(7人)、ネパール(1人)、タンザニア(1人)、中国(4人)、インド(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 俳句	有名俳句を読んで情景画を書き、俳句の世界を楽しむ。俳句の形を学び、夏の季語を知る。友達とペアになり、課題の季語を用いて俳句作りに挑戦する。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)	滝藤英里、森嶋計詞
16	平成25年 8月21日(水) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	17人	フィリピン(7人)、ネパール(1人)、タンザニア(1人)、中国(4人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約60冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。一般書を追加。読む力がのびている子には一般書をすすめる。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	澤田帆乃香、下出麻世
17	平成25年 8月21日(水) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(8人)、ネパール(1人)、タンザニア(1人)、中国(5人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(2人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” ディスカッション “生活の漢字” 病気・病院	レベルに合わせてディスカッションに挑戦。初級クラスは「夏休みにやりたいこと・やったことについて」、中級クラスは「お楽しみ会の内容について」、上級クラスは「外国人にとって住みやすい社会について」。 保護者の生活の漢字クラスは病気・病院の漢字を中心に学ぶ。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(講師)	澤田帆乃香、下出麻世
18	平成25年 8月21日(水) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(8人)、ネパール(1人)、タンザニア(1人)、中国(5人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(2人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 俳句	「おーいお茶」の現代俳句をいくつか紹介し、好きな俳句を選ぶ投句を行う。その後、自由に俳句を作り、短冊に筆ペンで書いて作品として完成させ、皆の前で発表する。 親子参加のグループは日本語の拍とリズムを体感しながら、拍取り双六をする。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(講師)	澤田帆乃香、下出麻世
19	平成25年 8月23日(金) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	19人	フィリピン(5人)、中国(8人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約70冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。学校の宿題で読書感想文のある子は課題図書を読む。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤礼子(通訳)	滝藤英里、森嶋計詞

20	平成25年 8月23日(金) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(6人)、中国(8人)、インド(1人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” ロールプレイとディベート	ロールプレイやディベートに挑戦。初級クラスでは友達と遊ぶ約束、先生や目上の人との会話のロールプレイを行う。中上級クラスでは、NHKのNewsWebEasyの動画を見て、こどものスマホ依存について話し合う。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤礼子(通訳)	滝藤英里、森嶋計詞
21	平成25年 8月23日(金) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(6人)、中国(8人)、インド(1人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 双六	自分のコマ、サイコロを作り、日本語教材やダウンロード教材の双六をやってみる。片仮名や漢字、言葉に親しみながら、双六遊びのおもしろさを知る。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤礼子(通訳)	滝藤英里、森嶋計詞
22	平成25年 8月26日(月) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(5人)、ネパール(1人)、中国(8人)、インド(1人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約90冊)の易しいレベルか、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。学校の宿題で読書感想文のある子は課題図書を読む。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	澤田帆乃香、山下恵美子
23	平成25年 8月26日(月) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(5人)、ネパール(1人)、中国(8人)、インド(1人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” 自分史	お楽しみ会で発表するための自分史作文を書く。まずは生まれてから今までの自分の年表を作成する。その後、構想を練り、資料や写真集めをする。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	澤田帆乃香、山下恵美子
24	平成25年 8月26日(月) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	20人	フィリピン(5人)、ネパール(1人)、中国(8人)、インド(1人)、台湾(2人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 双六	グループに分かれて、オリジナルの双六を作成し、自分たちで作った双六遊びをする。時間のあるグループは他のグループが作った双六と交換し、他グループの双六でも遊んでみる。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、滝藤英里(通訳)	澤田帆乃香、山下恵美子
25	平成25年 8月28日(水) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	18人	フィリピン(6人)、中国(8人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約90冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。学校の宿題で読書感想文のある子は課題図書を読む。	上村桂恵子(講師)、石川年子(講師)、伊藤里奈(通訳)、伊藤礼子(通訳)	下出麻世、滝藤英里
26	平成25年 8月28日(水) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	22人	フィリピン(8人)、中国(10人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” 自分史 “生活の漢字” 学校の漢字	自分史作りを進める。作文内容に合わせて、写真や絵をまとめた資料集を作成。スピーチの練習をする。 保護者の生活の漢字クラスは学校行事・学校のお知らせ文書の漢字を中心に学ぶ。	上村桂恵子(講師)、石川年子(講師)、伊藤里奈(通訳)、滝藤英里(講師)、伊藤礼子(通訳)	下出麻世
27	平成25年 8月28日(水) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	22人	フィリピン(8人)、中国(10人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 百人一首	坊主めくりで百人一首に慣れてから、有名短歌の音読練習を行う。覚え方のコツと百人一首カルタのルールを知る。 親子参加の入門レベルの子たちはカルタと坊主めくり挑戦。お母さんに絵札を読んでもらい、親子でゲームを楽しんでもらう。	上村桂恵子(講師)、石川年子(講師)、伊藤里奈(通訳)、滝藤英里(講師)、伊藤礼子(通訳)	下出麻世
28	平成25年 8月30日(金) 10:00～11:00	1時間	名古屋YWCAホール	18人	フィリピン(7人)、ネパール(1人)、中国(6人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“読む・書く” 多読	『多読ライブラリーよむよむ文庫』とレベル分けをした一般書(計約90冊)の易しいレベルから、各生徒の日本語レベルに合わせて本を読む指導をする。学校の宿題で読書感想文のある子は課題図書を読む。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)、伊藤礼子(通訳)	石川年子、森嶋計詞
29	平成25年 8月30日(金) 11:00～12:00	1時間	名古屋YWCAホール	21人	フィリピン(8人)、ネパール(1人)、中国(8人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“する(日本文化体験)” 百人一首	レベル分けした2クラスを、源平合戦風に2グループに分けて百人一首カルタ対決。読み手にも挑戦させる。初級クラスはカルタで対決。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)、伊藤礼子(通訳)	石川年子、森嶋計詞
30	平成25年 8月30日(金) 13:00～14:00	1時間	名古屋YWCAホール	24人	フィリピン(10人)、ネパール(1人)、中国(9人)、インド(1人)、インドネシア(1人)、ウクライナ(1人)、イタリア(1人)	“話す・聞く” 自分史発表会	自分史を作成した子は発表を、時間の関係で作成出来なかった子は裏方として司会やプロジェクターの操作、審査員などを行い、全員が役割を持って自分史発表会に参加する。	上村桂恵子(講師)、山田祐子(講師)、伊藤里奈(通訳)、伊藤礼子(通訳)	石川年子、森嶋計詞

(7) 参加者の募集方法

チラシ送付: 市内小学校・中学校、国際交流協会、生涯学習センター、教育委員会、図書館、教会、東海日本語ネットワーク、日本語教室、日本語学校、生徒個人など

送付時期:6月上旬~中旬

送付部数:約700部

FAX送付:新聞社

ほか、ホームページとブログを作成して告知

HP: <http://www17.ocn.ne.jp/~nywcj/2013kosodate.html>

ブログ: <http://nywcabunka2013.blog.fc2.com>

[illegible]

後援者の為へ

●申込みの期にすぎませんので、

① 期が過ぎれば、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

② 申込みは先着順、優先順位は入ります。

③ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

④ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

⑤ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

⑥ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

⑦ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

⑧ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

⑨ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。

⑩ 申込みが完了した時点で、申込みの受付は行いません。申込みが完了した時点で、申込みの受付は終了となります。


経済学系

東京大学経済学系日本語センター

〒100-8302 東京都千代田区千代田 1-7-3

TEL 03-3812-3111 FAX 03-3812-3112

E-mail: nyu@nyu.econ.u-tokyo.ac.jp

url: www.nyucen.u-tokyo.ac.jp


経済学系 日本語センター

代表 田中 孝

TEL 03-3812-3111 FAX 03-3812-3112

E-mail: nyu@nyu.econ.u-tokyo.ac.jp

url: www.nyucen.u-tokyo.ac.jp



東京大学経済学系日本語センター

〒100-8302 東京都千代田区千代田 1-7-3

TEL 03-3812-3111 FAX 03-3812-3112

E-mail: nyu@nyu.econ.u-tokyo.ac.jp

url: www.nyucen.u-tokyo.ac.jp


経済学系 日本語センター

代表 田中 孝

TEL 03-3812-3111 FAX 03-3812-3112

E-mail: nyu@nyu.econ.u-tokyo.ac.jp

url: www.nyucen.u-tokyo.ac.jp

2012-13 Japanese language education project funded by the Department of Cultural Affairs for foreign residents

The Nagoya YMCA
Summer Japanese Lessons for Foreign Families

July 1st - 10th

The Nagoya YMCA is organizing "Summer Japanese Lessons for foreign residents". This program is targeted at the children aged 10-18 and their parents whose native language is not Japanese. In addition to reading and speaking lessons, we're planning various Japanese cultural activities, such as Origami, making Hayabusa-style four-petalled paper cards. For parents, we provide lessons of Kanji which are used in daily situations: shopping, traveling, visiting a doctor, etc.

● Participants: children aged 10 to 18 and their parents whose native language is not Japanese (maximum capacity: 250)

● Location: Nagoya YMCA

● Time: 10:00am-3:00pm (bring your own lunch)

● Fees: 4,000 yen per child (or child 4000 yen + 10,000 yen for adult (or adult 4000 yen + 2,000 yen))

● To participate, send the application form to the Nagoya YMCA by email, print out and fax, or personally drop it off: Friday July 27th, 2012



● Class Schedule

Children classes (11 classes in total)	English
August 2 (Fri), 6 (Mon), 7 (Wed), 9 (Fri), 19 (Mon), 21 (Wed), 23 (Fri), 24 (Sat), 28 (Mon), 29 (Tue)	10:00am-12:00pm Reading & Speaking 12:00pm-2:00pm Japanese culture experience 2:00pm-3:00pm Independent study time
Parent classes (11 classes in total)	
August 10th (Sat), 21 (Wed) and 28 (Mon)	11:00am-12:00pm Kanji for daily life 12:00pm-2:00pm Japanese cultural experience

● Organizer: the Nagoya YMCA (Chikusa-ku, Nishi-Kamicho 1-1-1, Nagoya City, Aichi Prefecture)

===== CUL OR =====

Application for the Summer Japanese Lessons for Foreign Families

● Name: _____ Gender: M / F Date of birth: _____ Age: _____ Nationality: _____

Resident's card number: _____ Native language: _____ Arrived in Japan (Y/M/D): _____

Phone: _____ Fax: _____ E-mail: _____

Emergency Contact (Parent name and phone): _____

● *Only for kids for daily life for parents' Name: _____

● *Kana letters for entries during the class and one name of their e-mail website. (You may send family photos) (Date: _____)

To Parents/ Guardians

◆ Please read before applying.

- This school is not designed to give children better grades at school.
- The Nishiga YWCA is not responsible for any accidents that may occur before and after the class.
- The tuition includes insurance premiums.
- Please accompany your child to the first class. Please let us know if you cannot make it.
- In case of last weather, the class might be cancelled. If you are not sure whether the class is going to be held, please call the office.
- In case your children get sick, please make sure to pick them up. The school cannot accompany them to their houses.
- Many lessons for daily life or Tri-arts on Wednesdays for parents. We are looking forward to your participation.

★ Contact Information

The Nishiga YWCA Center Japanese Lessons for Non-Japanese Speakers
Administration | Normata and Kurekawa
Address : 9-10 Goshomachi, Kanabara, Nishiga, Niigata 950-0004
Tel: 082-661-7767 (ext. 66)
Fax: 082-661-6672
E-mail: nywca@nnywca.or.jp
HP: www.nnygpa-ywca.jp




Two months with a daily lesson
Station, web 3

学校の先生は日本語が上手に話せるから大丈夫

ご両親様へ、お集まりの目的をお伝えさせていただきます。本校では、日本人教師による授業を行っています。先生方は日本語が上手に話せるので、安心して参加していただけます。お子様が入学した当日から、毎日授業を行います。授業内容は、基礎的な文法や単語、そして日常生活で使う表現などです。また、毎週の授業には、英語と日本語の対比を説明する時間があります。これは、お子様が両方の言語を理解し、使いこなすための助けとなります。

Request for Japanese teachers and those who support children

This class is open to all students who have basic knowledge of English and Japanese, and they can speak two languages fluently. In order to learn Japanese ability and challenges that each student has, we will hold a trial lesson where you support them from a daily basis. We would like information for the program purposes as to what the student can/cannot do, health challenges, etc. Please send the information for the program purposes.

Name _____ CARDSpan _____ 3

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

◆8月5日(月) 生徒22人/講師2人 通訳1人 補助者2人

9:00 スタッフ集合後、教室設営と簡単な打合せ

9:40 日直生徒2人来校

10:00 生徒来校

1時間目「読む・書く」

多読ライブラリー『日本語よむよむ文庫』と、レベル設定した一般書約50冊で多読をする。講師が声掛けをしながら行い、入門レベルの生徒にはCDを使ってストーリーを聞きながら読ませる。読んだ後は読書記録を記入。



※私語がなくなり、集中して読んでいる様子が印象的だった。

11:00 休憩

11:10 2時間目「話す・聞く」

日本語レベルに合わせて5つのグループで「インタビュー」をテーマに活動。中級では「～たことがありますか？」を使って経験を聞くインタビュー、初級ではワークシートを使って友達にインタビュー、上級では自由に聞きたい内容を考えてインタビューを行う。
※中上級グループは活発な会話の時間となったが、初級グループの発話を引き出すのは難しく、モデルを示す必要があった。

12:00 ランチタイム

13:00 3時間目「日本文化体験」書写

硬筆では、直線、曲線、そして自分の名前と住所の練習。
毛筆では、「はな、栄光、努力、忍耐」などの手本を見ながら好きな字を書く。

※毛筆体験ができる水習字が大人気だった。
乾くと消えてしまうため記念写真を撮影した。



13:50 休憩

14:00 4時間目「自由学習」

学校の宿題を各自で行う。

14:50 ミニゲーム「サイコロゲーム」

15:00 ホームルーム

連絡帳に出席スタンプを押し、次回のアナウンスをして終了。

※日直の号令で「ありがとうございました。さようなら」と元気に挨拶をして生徒退出。

15:15 生徒の学習報告書記入、簡単な打合せをしてスタッフ業務終了。

◆8月28日(水) 生徒19人 保護者3人/講師3人 通訳2人 補助者2人

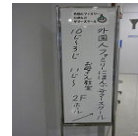
9:00 スタッフ集合後、教室設営と簡単な打合せ

9:40 日直生徒2人来校

10:00 生徒来校

1時間目「読む・書く」

※多読は毎回1時間目に行い、継続教室とした。夏休み後半は、学校の宿題で読書感想文がある生徒に対し、課題図書の見方や感想文の書き方指導も行った。



11:00 トイレ休憩

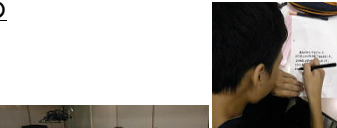
11:10 2時間目「話す・聞く」

勉強の成果を見せるために最終日の発表会で行う「自分史」作り。

※作文を書き終わった生徒は、発音に気をつけ熱心にスピーチの練習をしていた。

保護者の「生活の漢字教室」を並行して開催。

※参加者は3人のお母さん。運動会のお知らせの読み方や個人懇談会の申込書の書き方などを勉強する。子ども以上に熱心に取り組んでいた。



12:00 ランチタイム

13:00 3時間目「日本文化体験」百人一首

お母さんも一緒に、親子で日本文化体験。坊主めくりで百人一首に慣れてから、グループでカルタ対決をする。

※お母さんに読み札を読んでもらい、家庭でも遊べるように指導を行った。親子の時間が好評だった。



13:50 休憩

14:00 4時間目「自由学習」

※読書感想文や自由研究など夏休み最後の宿題をする姿が目立つ。

14:50 ミニゲーム「爆弾ゲーム」

15:00 ホームルーム

連絡帳に出席スタンプを押し、次回のアナウンスをして終了。

※回が進むにつれ、日直は挨拶の号令の他、片付けも進んで手伝うようになった。

15:15 生徒の学習報告書記入、簡単な打合せをしてスタッフ業務終了。



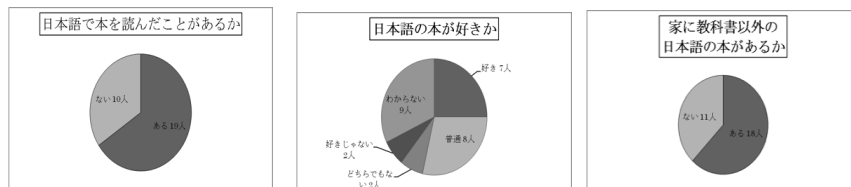
(9) 取組の目標の達成状況・成果:

検証方法:参加者アンケート、スタッフアンケート・ポートフォリオ、教室の様子より

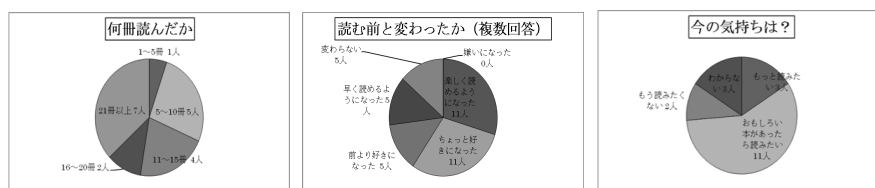
◆1時間目「読む・書く」教室

「本を読む習慣がない」、「家に日本語の本がない」、「読書が嫌い」という生徒が、日本語レベル別に分類された本を自由に読む時間を持つことにより、着実に読む力をつけることができた。中でも「楽しく読めるようになった」という意見が多く、多くの生徒が本の読み方を習得できた。本の好みや読み方は一人ひとり異なり、スタッフによる机間巡視と適切な声掛けやアドバイスが効果的であった。下記のアンケート結果から、目標は達成できたと言える。

●本について「最初」のアンケート集計結果(29人回答)



●本について「最後」のアンケート集計結果(19人回答)



◆2時間目「話す・聞く」教室

日本語レベルでのグループ編成で、「日本語で話す」「日本語を聞く」指導を行った結果、上級レベルでは活発なディスカッションやインタビュー活動などが行えたが、モデル文やワークシートが必要な初中級レベルでは発話させるのが難しかった。しかし、成果発表の「自分史・ぼく/わたしのフォトストーリー」は、レベルに応じた等身大のスピーチができ、これに関しての成果は大きい。在籍学校で力を発揮できない生徒にとって、プロジェクターを使用し壇上に立って話すという本格的スピーチ体験は有意義なものとなった。

◆3時間目「する」日本文化体験教室

日本人の子どもなら当たり前のように生活の中で体験する機会を持って成長するが、外国にルーツを持つ子どもがなかなか体験できないこととして、「折り紙・書写・そろばん・俳句・双六・百人一首」を体験させた。初体験だったものも多く、新鮮な驚きと興奮に包まれた体験教室となり、「もっとやりたい」「全部楽しかった」という意見がアンケートでも目立った。日本生活の礎となる体験ができ、普段の日本語教室では行うことができない貴重な授業ができたことは、大きな成果である。

●日本文化体験アンケート集計結果(23人回答)

一番楽しかった体験はどれ?

折り紙: 1人 書写: 2人 そろばん: 1人 双六: 5人 百人一首: 6人 全部: 7人

◆水曜2・3時間目 保護者教室「生活の漢字」「日本文化体験」

生活の漢字を教え、日本での生活をスムーズに送れるようサポートする目的で開催。参加者は5人。懇談会や運動会のお知らせなど学校に密接した内容で手応えを感じた。また、保護者の参加理由は、「子どもが勉強する姿を見たい」「子どもと共に学びたい」ということもあり、共に日本文化体験をする時間が好評だった。

◆将来のサポーター養成

生徒の中から毎回2人の日直を決めて、授業の準備や片付け、号令などを経験させた。在籍学級では活躍できない生徒が、日本語教室で自分の力を発揮できる、それが自信につながるという効果を期待している。サマースクール終了後の9月に、「初めて学級の係に立候補した」という生徒の報告を受け、小さな積み重ねが大切なことを改めて知った。また、日本語能力試験では平成25年度はN3に4人、N2に5人が合格し、「N1に合格して支援する側になる」という子ども達の夢が一步前進したことは非常に喜ばしい。

◆参加率・出席率

学校の先生や名古屋国際センターからの紹介など関係者からの信頼度が増し、定員20人のところ申し込みは30人以上となった。一時帰国や登校日と重なり休むことがわかっている生徒がいたため、人数調整しながら参加希望者全員を受け入れるシフトを作成した。また、お盆休みを除いて毎週月・水・金と8月ひと月の間、回数を多く設定したことや、午前10時～午後3時までという長時間の授業スケジュールは、「数回だけでも参加できた」「部活をやった後からでも来られた」と、参加率・出席率を上げることとなった。子ども教室の平均参加率は20.3人であり、目標を上回った。

また、保護者教室の応募者は5人で、申し込みに関しては定員5人という目標を達成した。

◆支援者の育成

講師として4人、通訳として3人、補助者として8人が参加。中でも5人がサマースクールの運営委員として準備から携わり、責任を持って教室運営を行った。勉強会も兼ねた2度のミーティングを開催。また、毎回、授業後に問題点を話し合い、常に改善と方向修正をしながら進めた。スタッフ全員が目標意識を持って取り組み、最終的には自分の評価、反省・課題、今後に生かせることをまとめたポートフォリオを作成した。下記はスタッフアンケート、ポートフォリオからの抜粋である。

●取組の良かった点

- ・夏休みだからこそできたプログラムであり、勉強らしい勉強だけが勉強でなく、子ども達にとって有意義な夏になった点。また、回数が多く時間が長いことで部分的でも参加することが可能となり出席率が高かった。
- ・お母さん達に子どものクラスでの姿を見てもらえる機会となった。
- ・ブログで毎回の内容を知ることができ、一部しか参加しないアシスタントにはクラスの様子や流れが分かって良かった。
- ・多読では、日本語の本など手にも取ったことがなかった子も、日本語を身近に感じる良いきっかけになり、今後の読書に対する前向きな姿勢が養われたと思う。
- ・習字や俳句、そろばんなどの日本文化体験では、実際に「体験」することがとても良かった。「知っている」と「やったことがある」のでは全く違う。
- ・楽しみながら語彙を増やし、友達と話すことで日本語に触れ、間違っていたら正す姿が見られた。遊びを通して日本語を学ぶことが出来るので、みんな生き生きと楽しんでいた。
- ・交代で日直をやることで、椅子や机の片付けの手伝い、帰りの挨拶を大きな声で言うなど、自分達のクラスだという意識を持たせることが出来た。

●取組の悪かった点

- ・子どものレベルが1人1人違うのでスタッフが足りないと感じた。授業に集中できない子が他の子に影響を与えてしまうことが多かった。
- ・「保護者の生活の漢字」は需要もありたことになるものだが、中学生から高校生の多感な年頃の子が親と一緒に勉強するのを嫌がるために参加者が少なかったのではないかと。実際生徒から、「本当はうちのお母さん、日本語できないから参加するといいいんだけど、親と一緒になんて絶対に嫌」という声を聞いた。
- ・学校の宿題をサポートするのが4時間目の自習時間だけだったので、宿題の量と時間のバランスが悪かった。
- ・仲良くなることで母語での私語が増え集中力が低下する傾向にあったのは、指導する難しさを覚えた。
- ・同じ国出身の友達がいらないマイノリティーの子どもは疎外感を感じているのではないかと心配する場面があった。

●取組の改善点

- ・生徒の能力を把握してもう少し細かく指導できるといい。ある程度のレベルのグループ分けをすること、スタッフを増やすことで、より計画的に進めていけるのではないかと。
- ・日本文化を紹介するカリキュラムは良かったが、お互いの国の文化交流が出来たらもっと良かったので次の課題とするといい。
- ・スタッフの勉強会が必要である。
- ・保護者クラスでは漢字に限定せずに、会話などを含めてもう少し幅を持たせるといい。トピックとしては学校に関する知識(進路・行事・お便り・連絡など)を中心とする。他に、授業参観や子どもの様子・学校についてスタッフと話す機会を作るのもいい。

●個人評価として良かった点

- ・子ども達が熱心に日本語を学んでいる姿を見ると教える自分も愛情を持って集中して取り組むことができた。子どもの上達が見えたのが良かった。
- ・来日したばかりの子に50音の書き方指導をした際、書き終わったものを見てとても満足気な表情に喜びを感じた。
- ・休憩中のコミュニケーションで性格などもわかり、クラスコントロールに役立てることができた。また、お母さん達と交流できいろいろな話が出来た。
- ・子ども達の学習をサポートしながら親睦を高めることが出来た。教えることで改めて日本語や日本文化について考え学ぶ、よい機会になった。

●反省と課題

- ・飽きさせずに子どもを指導するのは大人と違って難しいと痛感した。どこまで厳しくどこまで楽しく授業をするかが課題である。
- ・「わかる」の意味が、「文字が読める」「内容がわかっている」など人によって違うことがわかったので、今後はしっかり確認して指導したい。
- ・子ども達自身に目標を持たせるべく仕向けることが自分自身の課題である。
- ・子ども達の性格、レベルを考慮して、それぞれに合わせて対応していく必要がある。できるだけ仕事を持たせたり、何か役割を与えたりして、上手く巻き込んで子どもが自発的にできるよう指導したい。
- ・やさしい日本語での説明がなかなか出来ず困ったり、やる気のない子に課題に向かわせるのも上手いかなかったもので、いろいろなことに丁寧に対処できる力をつけたい。
- ・その子のレベルにあった日本語を使って丁寧にわかりやすく、かつ簡潔に教えられるよう力をつけたい。また生徒との信頼関係を築く努力をしたい。

●経験したことをどう生かすか

- ・日本語のどんなところに興味を持ち、何を一番難しく思っているかが子どもの正直な姿から伝わることもあり、そういう点を見直して大人の指導にも活かせたらと思う。
- ・日本文化を取り入れた授業は子どもだけでなく大人教室でも十分活かせると思うので、地域のボランティア教室でも取り入れていきたい。
- ・成功例を通常の子どもの日本語教室でも用いたい。
- ・多読、そろばん、百人一首など継続できるものは継続して子どもの力を伸ばしたい。
- ・今後、日本語を教える上で、子どもと大人の違いや共通点を意識していきたい。
- ・やさしい日本語をもっと上手く使えるようになりたい。
- ・「現場」を見ることで、日本語教育セミナーで学んでいることがより具現化されてきた気がする。それを知識の積み上げに還元していきたい。
- ・将来、海外で日本語教師をしたいという目標があるので、外国人の学ぶ日本語は何が問題とされているか、何を難しく感じているかなど覚えておきたい。
- ・今回の経験で価値観が変わり、私達のあたり前は彼らにとってもそうとは限らないということを改めて思った。経験を活かし大学で専攻している日本文化を学んでいきたい。
- ・将来、日本語教育に携わる仕事をしたいので、様々な経験を通して、学んだり改善したり試行錯誤をして、学習者とどのように接すると良いか考えるきっかけになった。

(10) 改善点について

- ・多読に関しては、積み上げが必須であり、部活で1時間目を遅刻する・寝坊が多いといった生徒に効果が薄かったことは否定できない。また、読書をずっと苦痛に感じていた生徒がいたこともアンケートから分かり、生徒の心理面を把握しきれていなかったことが後から分かった。「読み」のアンケートは最初と最後だけでなく、途中にも行い、指導の参考にするべきであった。効果を高めるためには今後も多読教室の継続が大切である。
- ・取組事業外の活動として4時間目にボランティアスタッフを5人増やし、生徒2対支援者1体制で学校の宿題や苦手教科の補習を行ったが1時間だけでは追いつかず、学習支援時間を増やす必要を実感した。
- ・支援者の勉強会に当てる費用がなく実労時間以外は全てボランティアであり、長期に渡って支援教室を継続するためには、支援者に対する金銭的な補助も教室存続の課題である。
- ・最大の改善点は「保護者教室」の開催方法である。需要を確信し、保護者の学びたい内容を把握できたため、次は教訓を活かして行うことができる。募集は来日間もない保護者を軸とする、学校に密接した語彙・漢字・表現を取り上げる、回数を見直すことが必須。

○取組4:地域連携プログラム 日本語ボランティア講座「生活日本語を考える」

(1) 体制整備に向けた取組の目標:

日本語ボランティア養成を通じて地域の課題を協議し、活動をさらに展開できるように協同する。「標準的なカリキュラム案」を使い、地域に合わせた教材をボランティア自身で作成することを目標とする。また「やさしい日本語講座」では、「やさしい日本語」の概念とその必要性を認識してもらい、防災をテーマに地域の外国人に「やさしい日本語」を使用して情報を伝えることができることを目標とする。

(2) 取組内容:

日本語ボランティア養成ワークショップ①名古屋YWCA「標準的なカリキュラム案」の活用方法②春日井市「標準的なカリキュラム案」の活用方法③一宮市「やさしい日本語」講座 ①②では「標準的なカリキュラム案」の活用方法、活動案を検討し、③では主に防災をテーマに地域の外国人に地震などの際の情報の伝え方、「やさしい日本語」の活用方法について検討し、地域のボランティア活動に生かしていく。

(3) 対象者:地域の日本語ボランティア

(4) 参加者の総数: 56人

(出身・国籍別内訳 日本56人)

(5) 開催時間数(回数) 12時間 (全3回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 7月6日 10:00～15:00	4時間	名古屋YWCA 201-202教室	30人	日本(30人)	「標準的なカリキュラム案」の活用方法	アイスブレイク(自己紹介)後、名古屋とその近郊の外国人状況と「標準的なカリキュラム案」の概要を学ぶ。ワークショップ(グループ別)。「標準的なカリキュラム案」を使用し、実際の対象者を想定した上で、活動案を考える。)を行う。	米勢治子	和田貴子
2	平成26年 2月8日 10:00～15:00	4時間	春日井市 ささえ堂センター(市民 活動センター)	16人	日本(16人)	「標準的なカリキュラム案」の活用方法	アイスブレイク(自己紹介)後、春日井市の外国人状況と「標準的なカリキュラム案」の概要を学ぶ。ワークショップ(グループ別)。「標準的なカリキュラム案」を使用し、実際の対象者を想定した上で、活動案を考える。)を行う。	米勢治子	和田貴子
3	平成26年 2月16日 10:00～15:00	4時間	一宮市 尾西生涯学習センター	10人	日本(10人)	やさしい日本語講座	アイスブレイク(自己紹介)後、一宮市の外国人状況と多文化共生、「やさしい日本語」の概要を学ぶ。「やさしい日本語」ミニクイズ、ワークショップ(①災害時の「やさしい日本語」～読み書き編～、②災害時の「やさしい日本語」～会話編～)を行う。	土井佳彦	和田貴子

(7) 参加者の募集方法

市(春日井市・一宮市)の広報に掲載

チラシ送付: 国際交流協会, 生涯学習センター, 教育委員会, 図書館, 教会, 東海日本語ネットワーク, 日本語教室, 日本語学校など

送付時期: 6月上旬

送付部数: 約400部

FAX送付: 新聞社

ほか, ホームページとブログを作成して告知

HP: <http://www17.ocn.ne.jp/~nywcagl/2013kosodate.html>

ブログ: <http://nywcabunka2013.blog.fc2.com>



(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

◆2014年2月8日(土)

「標準的なカリキュラム案」の活用方法(春日井市開催) 受講者16人 天候: 雪

9:00 スタッフ集合, 準備

10:00 講座スタート

自己紹介

10:10 講義

春日井市の外国人状況, 日本語学習支援の現状, 「標準的なカリキュラム案」の概要とその活動方法や活動例を紹介。



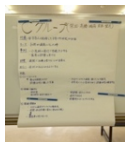
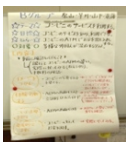
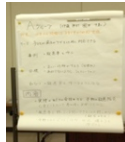
12:00 休憩(1時間)

13:00 ワークショップ(3グループ)

「標準的なカリキュラム案」を使い, 実際の学習者を想定し「活動案」を考える。



14:00 発表 Group A/C 対象者: 日本人と結婚した子育て中の女性, B 対象者: 多様な外国人が混在するクラス



14:40 振り返り

①使えそう, やってみようと思った事

②疑問に思ったこと, もやもやしていること

15:00 講座終了

※当日は大雪で欠席者もいたが,
多くの人に参加した。

※「標準的なカリキュラム案」の存在
は知っているが, 活用の仕方を
知らないという受講生が多く見
られた。

※活動案の思案ではたくさんの意見が飛び出し,
どのグループも活発にワークショップに参加
していた。

※日本語ボランティア経験のない参加者にとっては,
実際の学習者の想定が難しかったようであった。

※「子どもが病気の時」や「コンビニのサービス利用」等
をテーマに, 色々な活動案が発表されたが, どれも
実際に活用できそうな, 学習者に役立ちそうな
活動案であった。

※第1回(名古屋YWCAにて7月に開催)のワーク
ショップでも取り上げられていた意見だが,
ボランティアの範囲やどう実行するかについての
疑問や課題があげられていた。

◆2014年2月15日(土)

「やさしい日本語講座」(一宮市開催) 受講者10人 天候:雨

9:00 スタッフ集合、準備

10:00 講座スタート
アイスブレイク 自己紹介



※前日の雪、当日の雨が影響し、
欠席者が多かった。

10:10 講義(一宮市の外国人状況と多文化共生について、「やさしい日本語」とは何か。ミニクイズ)

12:00 休憩(1時間)

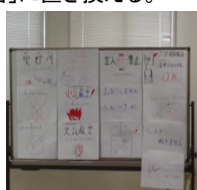
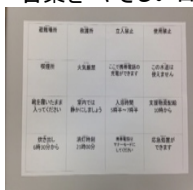


※当日は、テレビ取材が入る中で
ワークショップを行った。

13:00 ワークショップ

①やさしい日本語 ～読み書き編～

写真(「火気厳禁」、「炊き出し6時30分」から等)の
言葉を「やさしい日本語」に置き換える。



※参加者は「やさしい日本語」に置き換えることの
意義と同時に難しさを感じていた。

※一般の参加者には、外国人の実情とその問題、
地域の日本語ボランティア活動などを知ってもら
う良い機会にもなった。

②やさしい日本語 ～会話編～

災害時に外国人に「やさしい日本語」を使って話しかける。

15:00 講座終了

(9) 取組の目標の達成状況・成果:

検証方法:担当講師、補助者の意見、参加者の感想、教室の様子、アンケート(感想)

◆全体

- ・春日井市や一宮市と連携を図ることで、地域の外国人の現状とその問題を把握し、今後の企画運営に有益な情報を得ることができた。
- ・地域に住む「生活者としての外国人」の現状を知り、今ある問題にどう対処すべきかを考える機会を提供できた。
- ・日本語教育関連以外の人にも「生活者としての外国人」の現状とその支援の必要性を知ってもらう機会になった。
- ・アンケートでは「よかった」という意見が多く、今後も勉強を続けるために各地域でこのような講座の開催を希望する意見が多数見られた。
- ・ワークショップ形式という実践的な活動が好評であった。
- ・異なる団体で活動する参加者同士が意見交換をする機会を得たという意見も多数見られた。

◆「標準的なカリキュラム案」の活用方法

- ・「標準的なカリキュラム案」を広く知ってもらい、既存の教材ではなく生活場面に沿ってどのように「カリキュラム案」を活用していくかを考える場の提供ができた。
- ・「カリキュラム案」を知らなかった参加者、知っていても使い方がわからなかった参加者にとっては、「生活者としての外国人」に対してどのような支援が必要なのかを意識してもらうきっかけになった。
- ・今後「標準的なカリキュラム案」を活用していきたいという意見が多数見られた。

◆「やさしい日本語講座」

- ・「やさしい日本語」のコンセプトとその必要性を知ってもらい、今後どう活用していくかを共に考えてもらう場の提供ができた。
- ・日本語をもう一度見直す機会になり、「やさしい日本語」は外国人対象だけではなく、今後の日本社会にとって重要なものであることがわかったという意見が多数見られた。
- ・メディアからの取材依頼があり、フジテレビの「ニュースJAPAN」で特集として取り上げられ、「やさしい日本語」の普及につなげることができた。

(10) 改善点について

◆全体

- ・内容を難しく感じる人が多く、申し込みに至らないケースが多く見られた。
- ・講座の時間が長いという理由で申し込みをしない人がいた。

◆第1回 名古屋YWCA開催「標準的なカリキュラム案」の活用方法

- ・「標準的なカリキュラム案」や活動案を考えるというワークショップが難しかったという意見が多数あった。
- ・振り回りの時間まで十分に時間がとれなかった。

◆第2回 春日井市開催「標準的なカリキュラム案」の活用方法

- ・講座の時間、内容の難しさから、参加者がなかなか集まらなかった。
- ・難しいという意見が多数見られた。
- ・日本語ボランティア経験がなく、ワークショップという形式に不慣れな参加者にとっては、特に難しく感じたようであった。
- ・開催日は天候が悪く、欠席者が多かった。

・講座の時間、他の行事や日本語ボランティアの曜日と重なるなどで、募集がなかなかうまくいかなかった。
・開催日は天候が悪く、欠席者が多かった。

(1) 事業の目的:

(2) 事業目的の達成状況:

(3) 地域における事業の効果、成果:

(4) 改善点

i 現状:

ii 今後の課題:

- iii 今後の活動予定:

(5) その他参考資料

◆取組1「生活と子育ての日本語講座」生活・マナーより

19

